未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ 13

写真や図表で見る
全農のいま

営業開発部

主な事業内容
- 品目のカテゴリーを越えた共同営業
- 他企業とも連携した商品開発
- 実需者ニーズに対応した産地開発
- 他企業とのアライアンスの強化
- 総菜事業の展開
- JA直売所との連携・支援

国産農畜産物の魅力を伝え産地と消費者の架け橋に

営業開発部は、日本各地の魅力ある農畜産物を原料とした開発商品を通じて、その価値のすばらしさをより多くの消費者に知ってもらうことで産地応援や生産者の所得向上に貢献することがミッションです。全国の直売所の運営や流通各社などとのアライアンスの強化を図っていくことで産地と消費者の架け橋となるための取り組みを紹介します。

FILE 1

ファミリーマートなどと連携した地域の農業課題への取り組み

コンビニエンスストアなど各流通チャネルと連携し、国産農畜産物のPR・消費拡大や商品開発による地域の農業課題への対応に取り組んでいます。群馬県産こんにゃく芋の事例では、国産原料を使用した惣菜商品をファミリーマートと共同開発し、全国約15900店舗（一部地域を除く）で継続発売しています。

かつおこんにゃく

こんにゃく味噌田楽

FILE 2

営業開発部に直売所支援室を新設！

2025年4月に設置した直売所支援室では、全国のJA直売所の運営・経営改善支援に取り組んでいます。各直売所に訪問し、地域特性や立地をふまえた、来店動機につながる販売促進策や食の安全・安心確保に向けた諸施策、店内プロモーション策（USEN JAオリジナルチャンネルなど）を提案します。

料理を美味しくする炭酸水自販機
大好評！

食品表示のチェック
プロをご紹介します！

FILE 3

産地を応援したい！ 開発商品にかける思い

JA全農の商品ブランド「ニッポンエール」や「全農ブランド」「農協シリーズ」など、各地の農畜産物を主原料とした開発商品を通じて、日本の農畜産物の価値や素晴らしさを消費者の皆さまにお伝えし、産地応援や生産者の所得向上に貢献します。

ニッポンエールプロジェクト協議会では10月より「山梨県産すもも」を使った商品を展開し、生果の認知拡大を行います。

私が担当する商品開発のカテゴリーは、国産果実を使ったグミやドライフルーツ、キャンディなどの菓子やお酒、パン、そして冷凍野菜など多岐にわたります。生産者の所得安定ひいては生産基盤の維持のためには、国産農畜産物の消費拡大は不可欠です。昨年度まで在籍した営農部門での経験を生かして、産地の声をよく聞き、全国のブランド農畜産物をより多くの消費者に知ってもらえるよう、これからも魅力ある商品の開発に取り組みます。

JA全農営業開発部
MD企画課
佐本 亮太さん

2015年入会。全農兵庫県本部営農企画部を経て、2025年より営業開発部に着任。これまでの経験を踏まえて、産地を深堀り、各地の魅力ある原料を各メーカーに提案するなど、商品企画開発を進める。

全農 ZEN-NOH　JA全農事業ビジョン2030はこちら

次回は酪農部
「生乳需給の安定と持続可能な酪農を目指して」10月13日（月）掲載予定